

令和2年度 新栄小学校 校内研究の概要

1 研究主題

「仲間と共に運動やスポーツに親しもうとする児童の育成」

～どうすれば児童の「体育の見方・考え方」を育むことができる？～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

近年の社会情勢の変化は急速であり、予測困難な時代となっている。総務省の示す「Society 5.0」に代表されるような with A.I.時代の到来や、OECDの「education2030」が中で示したラーニングコンパス。これらはいずれもこれからの社会は「well-being(一人ひとりの幸福)」が重要だということを示唆している。

一方で2020年度より「生きる力…学びのその先に」をテーマに学習指導要領が小学校で完全実施となった。こういった社会情勢の中で児童がどのような資質・能力を身に付けていかなければならないのか、我々児童の教育に携わるものとして見つめ直す時期にきている。

ところで、体育科の新学習指導要領においても、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す」とある。体育科における資質・能力の育成は、豊かなスポーツライフの実現という点で、先述の「well-being」の考えにも通じるものである。

では具体的にどのように体育の学習を通して、資質・能力を育んでいくのか？このことについては検討の余地が残されており、これから研究していく価値のあることだ。

(2) 児童の実態から

本校の多くの子どもは素直であり、元気な挨拶ができています。また、外で遊ぶ子どもも多い。しかし、運動やスポーツする子どもと運動やスポーツをしない子どもの二極化や、運動やスポーツに熱心に取り組んではいるものの、ある運動種目に特定化してしまっている子どももいる。

昨年度(R1)の子どもの意識調査を見ると、全校児童の96.1%が「運動が好き」「少し好き」と答えており、全体の74%の児童が昼休みも外に出て運動遊びに親しんでいる現状がある。また、体育の授業に関してしてみると、自分のめあてをたて、活動に取り組むことができて児童が増えてきているが、その一方で課題解決の手立てに課題が見られる。学習カードを見る児童は24%で、中には課題解決をあきらめてしまう児童(7%)もいた。

(3) 本校の学校教育目標と昨年度までの研究の流れから

本校は、学校教育目標を「ともに たくましく 生きる」としている。「ともに たくましく 生きる」児童とは、仲間と共にかかわりながら、主体的に課題を解決していき、生活を豊かにしていこうとする姿である。校内研究として体育に取り組んで5年になる。「児童の実態に応じた授業づくり」や『『できる・わかる・かかわる』を大切にした授業づくり』を全職員で目指し、実践を重ねてきた。その中で運動に親しむ児童を本校では、

「体育の見方・考え方を働かせて、運動にかかわろうとする児童」

これまでの研究の積み重ねのから、本年度は①授業の準備。デザイン力、②教師の授業中における価値付け・視点の共有、③余暇時間の過ごし方に焦点を当てていく。

体育科の授業で、人やものこと（種目）と「かかわる」ことを取り入れた授業づくりを行えば、児童が「できる」・「わかる」実感できるようになり、体育の見方・考え方を働かせて運動にかかわる児童が育つであろう。

新栄小が体育科の校内研究を通して目指している児童の姿は、「図1に示すように、仲間とともに運動に親しもうとする児童」である。児童と運動の関係について考えてみた時、例えば学習指導要領に「する・見る・支える・知る」と挙げられているように、運動と児童の関わり方は多様になってきている。その中で本校では、体育科を通して「体育の見方・考え方を身に付け、より生活の中で運動に親しんでいこうとする（資質・能力を持った）児童の育成」を目指している。

『見方・考え方』には教科等の特質があり、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものとして、教科等の教育と社会をつなぐもの」

①人やもの、こと（種目）と「かかわる」ことを取り入れた授業づくり

を通して、育んでいくことを目指している具体的には右の図のように低・中・高学年で目指す児童の姿をもっている。そして実際の授業レベルでは、図2のように「できる・わかる・かかわる」の三つの観点から目指す資質・能力を整理しながら授業実践を行なうことで具現化できると考えている。

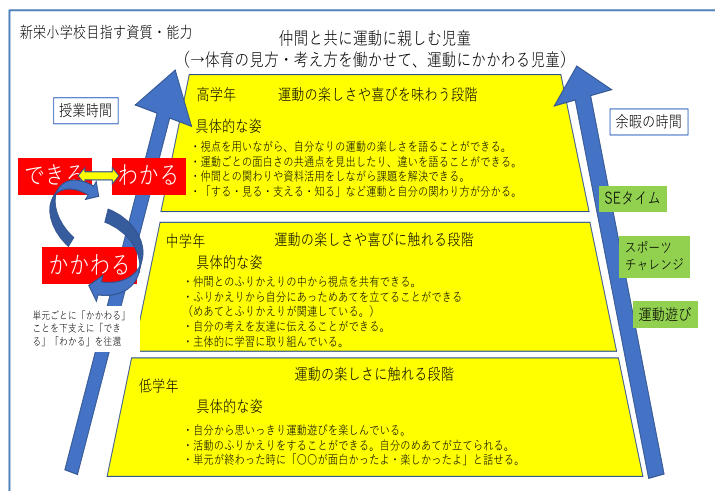


図1 新栄小学校で目指す運動に親しむ児童の姿

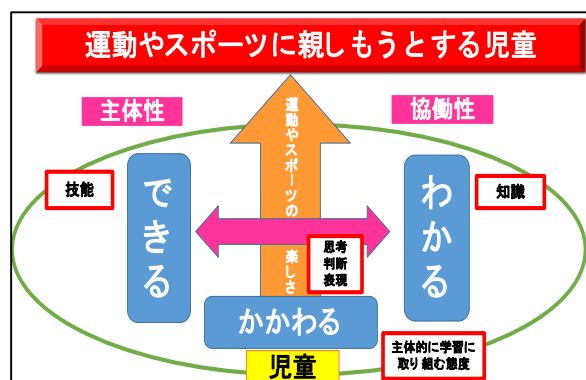


図2 新栄小学校の中で目指す資質・能力
「できる・わかる・かかわる」

仮説の条件として挙げている①人やもの、こと（種目）と「かわる」ことを取り入れた授業づくりとは 松田（2016）の考えに依拠している。松田の考えをベースにこれまでの新栄小学校の校内研究の「かわり」は図3のように整理される。これ

- 人とのかわわり
→自己内対話（ふりかえり-めあて）
友達とのかわわり（ペア、グループ学習）
- ものとのかわわり
→教材・教具
- こと（種目）とのかわわり
→運動の理解（何が楽しい運動なのか）
運動の学び方（タイム・マネジメント）

図3 松田のかかわり論と新栄小の校内研究の関連性

らはいずれも実際に授業を行う前に準備・デザインするための観点とも見受けられる。すなわち、一つ目の仮説検証の視点は、端的に言えば**教師の授業準備・授業デザイン力**のことを指している。

(2) 児童が「できる」「わかる」を実感できるようになるためには

児童の「できる」「わかる」は学習指導要領に記載されている、「運動の楽しさや喜びを味わう」からきている。この言葉は、学習指導要領解説の中で右の図4のように明示されている。新栄小学校では、高学年の「運動の楽しさや喜びを味わう」段階を目指しながら、学年の発達段階に応じて児童が運動との関係が豊かになっていくことが意図されている。

学習指導要領によれば、このいわば楽しさの深まり方について以下の3点で整理されている。

○意欲的に体育学習に取り組むことができるのか

○活動の中でどんな知識及び技能が身に付き、それらを活用しているのか

○どのように友達と関わっているのか

ここで生じる課題は、これらの観点をどのように評価していくのかということである。新栄小学校では図4のように、これまで佐賀市立本庄小学校で取り組まれてきた体育授業の在り方「本庄メソッド」を参考にしながら、児童のふりかえりから運動の見方・考え方を「視点」として共有してきている。

「視点」については授業の中でどんなことを取り上げるのか、どの順番であげるのかについて、6学年を通してどのように積みかさねていくのかなど、検討の余地が残されている。

そこで本年度も児童が「運動の楽しさや喜びを味わう」ことができるような**教師の授業中における価値付け・視点の共有**及び6学年を通してどう児童を育てていくか（新栄小学校としてカリキュラム作成）を意識しながら授業実践を行なっていく。

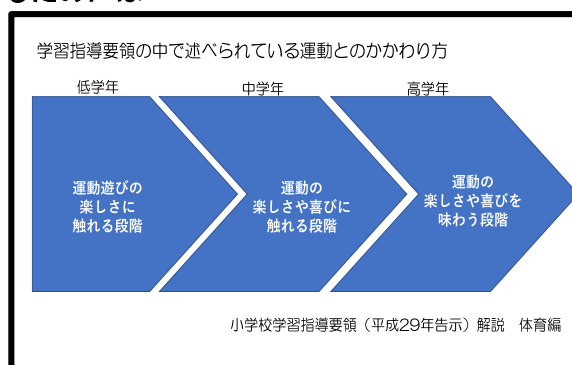


図4 学習指導要領（体育科）で述べられている運動のかかわり方の段階

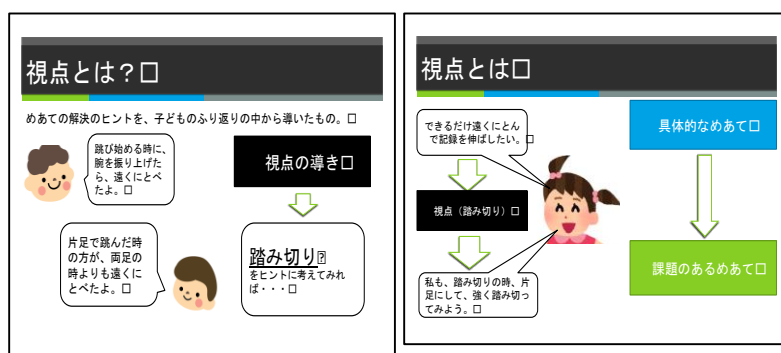


図5 視点の考え方（本庄メソッドを参考に）

(3) 児童の余暇の時間（授業外の時間）の過ごし方

また**余暇の時間（授業外の時間）の過ごし方**についても目を向けていく。児童の実態でも述べた通り、本校では運動時間の二極化傾向や特定の運動に偏って取り組んでいる児童の姿が見られる。児童が「運動の楽しさや喜びを味わう」ことができるように、新栄小学校では、余暇時間の取り組みとして大きく二つのことに取り組み、一定の成果が出てきている。

一つは月に一度、朝の時間にSEタイム（新栄エンジョイタイム）を設け、児童が様々な運動遊びに触れたり、仲間とともに運動へ意欲的に取り組むことができるようにしたりしている。もう一つは佐賀県で取り組まれているスポーツチャレンジへの参加である。これらの取り組みは学習指導要領の中でも述べられている運動への意欲的な参加や、運動を通した仲間とのかかわりにつながり、

「運動の楽しさや喜びを児童が味わう」ことに寄与することが期待される。

さらに余暇の時間の使い方として期待していることは、体育の学習で学んだ内容を休み時間などにも親しむ姿である。これまで校内研究に取り組む中で、例えば「スポーツ大会」「クラスマッチ」「先生たちと対戦」など学級活動の中で改めて取り組んだり、体育の学習で学んでいることを「自主学習」などで調べたりする姿も出てきている。これらの姿は、より児童が意欲的に運動に関わろうとする姿であり、「運動の楽しさや喜びを児童が味わう」ことにもつながると考えられる。

6 研究の内容と方法

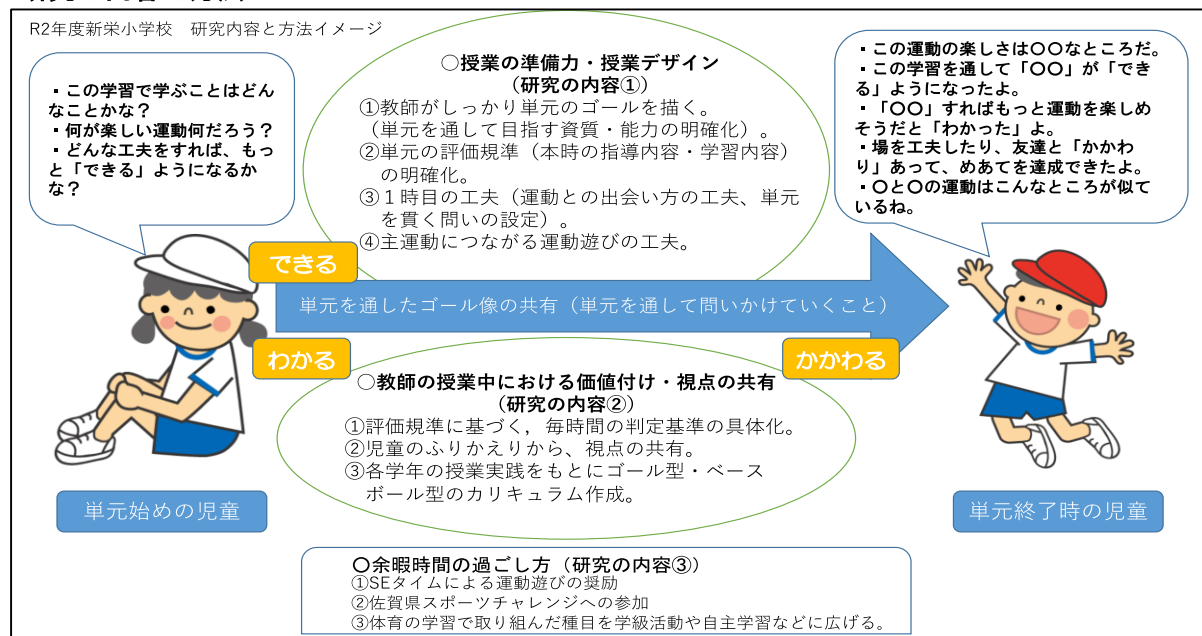


図6 R2年度新栄小学校の研究内容与方法のイメージ

本校は、昨年度よりボール運動領域を中心に研究に取り組み、ネット型の授業の中で一定の成果を上げることができた。本年度は特にボール運動領域のゴール型・ベースボール型に焦点を上げながら「仲間と共に運動に親しもうとする児童」を目指して研究を進めていく。

【内容1】教師の授業準備・授業デザイン力を高める。

- 方法・・・①教師がしっかり単元のゴールを描く（単元を通して目指す資質・能力の明確化）。
- ②単元の評価規準（本時の指導内容・学習内容）の明確化。
- ③1時目の工夫（運動との出会い方の工夫、単元を貫く問いの設定）
- ④主運動につながる運動遊びを工夫しましょう

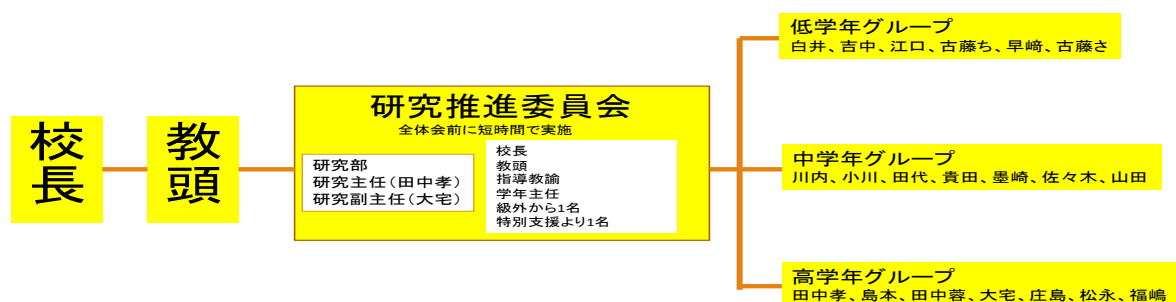
【内容2】教師の授業中における価値付け・視点の共有

- 方法・・・①評価規準に基づく、毎時間の判定基準の具体化
- ②児童のふりかえりからの視点の共有
- ③各学年の授業実践をもとにゴール型・ベースボール型のカリキュラム作成

【内容3】余暇時間の運動とのかかわり

- 方法・・・①SEタイムによる運動遊びの奨励
- ②佐賀県スポーツチャレンジへの参加
- ③体育の学習で取り組んだ種目を学級活動や自主学習などに広げる。

7 研究組織



8 研究の計画

No	期日	内容
1	4月10日(金)	- 研究の概要説明 45分の授業の流れの確認 - 代表授業者(全校研、グループ研)の決定
2	5月12日(水)	5時間目提案授業(6月へ移動) - 研究仮説、検証方法、指導案の様式の説明 - アンケートの説明 - グループワーク
3	6月17日(水)	- アンケートの結果の分析 - 各学年の進捗状況の確認 - カリキュラムの作成(各学年でどんな資質・能力を付けさせたいのか) - ポートフォリオ(仮説検証のため)の確認。
4	6月中	全校研1本目3年生「タグラグビー(予定)」 ※低学年・高学年は2学期の実践に向け可能な限りグループ研を実施。
5	7月(夏休み)	- 教育課程発表内容の共有 1学期実践のふりかえり - 研究のまとめの提案 - 各グループの活動内容の共有 - 指導案検討
6	8月(夏休み)	2学期の実践に向けて 2学期の公開授業についての提案 - 掲示物についても確認 - 講師招聘による実技研(検討中) - 指導案検討(牟田校長先生)
7	9月15日(水)	- これまでの成果とこれからの実践についての確認。(カリキュラムマネジメントも含めて) - 公開授業に向けての確認 - 指導案検討
8	10月21日(水)	- 研究概要の再度共通理解(当日発表資料の提案) - 指導案検討 - 模擬授業 - 掲示物等の確認
9	11月前半	公開授業(本校全体研二本発表)
10	11月18日(水)	- これまでの成果 - 研究のまとめについて 2学期のポートフォリオについて(仮説検証のため)
11	1月初旬	研究冊子の作成(短時間)
12	1月20日(水)	- 研究のまとめ - 各グループから成果の報告 - 新栄小のカリキュラム
13	2月17日(水) 最終回	- 今年度の成果と次へのステップ - 次年度に向けて